

# 鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

2012.4

vol. 72



## 定年退職のご挨拶

私事ながら、小生はこの3月を持ちまして鹿児島医療センターを定年退職致しました。皆様には地域医療連携室長及び脳血管内科部長として永らくお付き合いを頂き誠に有り難うございました。

当院は現在鹿児島医療センターと名乗っていますが、ご存知のように、陸軍病院時代はさておき、前身の国立鹿児島病院から国立南九州中央病院、国立病院九州循環器病センター、独立行政法人国立病院機構九州循環器病センター、独立行政法人国立病院機構鹿児島医療センターと変遷してまいりました。国立南九州中央病院となつてからは現在地に居を構えています。

小生が当院に着任したのは、伊敷分院と呼ばれていた伊敷の旧国立病院を現在地に統合した頃でした。昭和49年の夏までは現病院の敷地に鹿児島大学医学部の付属病院がありましたので、小生は人生の半分以上をこの城山の麓で過ごしたことになります。

当院広報に関して手元の記録を見てみますと、平成10年9月7日に「南中FAX NEWS (No.1)」が国立南九州中央病院神経内科から43の医療機関に送られており、これが当院对外広報の嚆矢ではないかと思われます。

これを発展させて、平成13年6月に広報誌「九循」を創刊しています。編集発行は国立病院九州循環器病センター編集委員会となっています。表紙に桜島を背景とした病院の写真があり、その下に病院の理念「高度で専門的、かつ良質の医療を、病む人の立場に立って提供します」と書かれ、さらに運営方針が箇条書きにされており、気負は感じられませんがいささか素人っぽいレイアウトです。

第2号（平成13年10月）では小生が、「私どもの九州循環器病センターは、循環器病センターという名前前から循環器だけの専門病院と誤解されがちですが、旧国立南九州中央病院時代と同様に、心血管疾患、脳卒中、癌を3本の柱として診療を行っていることには変わりありませんので、このような診療内容についても紹介していきたいと思っています。」と書いており、当時の院名称変更に伴う混乱が覗われます。

その後の広報は、平成16年に立ち上げた地域医療連携室に引き継がれ、10月には手製の「連携室だより」No.1を発行しています。ちなみに初代の室長は小生でした。No.3では、「神経内科」が「脳血管内科」となりました、との記事があります。

「連携室だより」はNo.5から、連携室だより「きゅうじゅん」とタイトルを変えて印刷も業者による立派なものとなりました。「きゅうじゅん」はその後毎月、No.14（平成18年3月）まで発行されましたが、病院名称の変更にもない平成18年4月からは「鹿児島医セン」創刊号と名前を変え、現在まで毎月の発行が続いています。

当院広報誌の歴史をざっと振り返ってみました。この様に永きに亘り発行できましたのは、発行に携わった全ての関係職員の努力の賜であることは云うまでもありませんが、良く続いたものと、我ながら感心しているところです。「継続は力なり」と言いますが、新年度からは新メンバーでこれまで通り毎月1回の発行を続けていくこととなるかと思しますので、今後とも末永くお付き合いのほどお願いいたします。

（文責：地域医療連携室長 濱田 陸三）

## 第2回 心臓血管病市民公開講座

鹿児島医療センター主催による第2回心臓血管病市民公開講座は、今年3月4日曜日、鹿児島県民交流センターにて行われました。昨年からはまった当院の市民公開講座は健康フェスタと講演の二本立てから成ります。二つを同時進行させた昨年とは異なり、今回は午前中に健康フェスタを、午後から講演という形式で行われました。テーマは「心房細動治療の最前線:あなたの脈は大丈夫ですか」というものでした。市民のための健康フェスタのプログラムは、昨年にならぬ、健康チェック(体脂肪、血圧、検脈)、正しい血圧測定について、自宅血圧計のチェック、減塩食の実際、救急蘇生法体験ABI法による下肢動脈硬化度の測定、心電図による脈拍測定、栄養指導、医師による健康相談、などが行われました。今回は放射線部ならびに検査部の参加による、画像で見る心臓と血管(心エコー法、CT法、MRI法)、加えて薬剤部参加による薬剤の内服についてのコーナーも設けられました。今年の健康フェスタは2階の広いスペースで行うことができ、循環器疾患というものをより多面的に演出でき、一層充実できたと思います。私は健康相談係りの一人として参加しましたが、次々に来られる市民の方と話しをしてい

るうちに時間が過ぎてしまい、とうとうフェスタ全体をみる機会を失ってしまいました。小雨模様の日でしたが、午前の部の健康フェスタには260名の参加を得ることができました。朝早くから参加されている人たちも多く、開始時刻を30分早めたほどでした。

午後からの講演には560名の参加がありました。最初、塗木徳人先生が不整脈と心房細動という演題でわかりやすいお話をされました。そのあと、心房細動と脳卒中(松岡秀樹先生)、心房細動のカテーテルアブレーション治療(田上和幸先生)、心房細動と外科治療(四元剛一先生)、心房細動と薬物療法:現在お薬を飲まれている方へ(東島彰人薬剤科長)と、いずれもすばらしい内容の講演でした。講演後には中島均、藺田正浩両先生の司会により「脈の乱れにどう対処したらいいのか」について質疑応答の時間が持たれました。不整脈は動脈硬化や高血圧に比べ、いまだ馴染みにくいテーマでもあり(このテーマでの公開講座やテレビ番組はあまりないはずです)、いささか懸念もありましたが、講演内容に参加者も熱心に聞き入っており、席を立つ人もほとんど見受けませんでした。心房細動をテーマに選んだことは正解であったと喜んでいきます。



当院の公開講座の特徴は、専門家による講演だけでなく、病院の医師、看護部、検査部、栄養部、放射線部、事務部など、全部門の参加によるフェスタと講演の共演です。お互いが市民という目線で、病院内では聞けないことや聞きにくいこと、かねて説明しそびれていること、などを話すことによって互いの理解を深めることは、これからの我々一人一人にとって、また病院全体にとっても多くのヒントがあるのではないかと思います。当院での心血管公開講座が市民と医療側両者間での医学・医療の共有の場としてこれからも発展することを願っています。

(文責: 皆越 真一)



# 新任紹介



研修医  
おかだ たかし  
**岡田 敬史**

4月からお世話になっております臨床研修医の岡田と申します。鹿児島で循環器や脳卒中の勉強をするのであれば鹿児島医療センターしかないと思い、この病院で初期研修をさせていただくことにしました。1日でも早くみなさまのお役に立てる医師になれるよう頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。



研修医  
いまはら ともひこ  
**今村 知彦**

4月より鹿児島医療センターで初期研修医としてお世話になっている今村知彦と申します。出身は霧島市隼人町で、加治木高校から九州大学薬学部、長崎大学医学部を卒業し、9年ぶりに地元鹿児島に戻って参りました。これまで鹿児島に貢献したいと思いつけてきましたので嬉しい気持ちで一杯です。どうぞよろしくお願い致します。



研修医  
なかむら まさたか  
**中村 昌孝**

はじめまして。私は東京生まれ、東京育ち、大学も東京ですが、初期研修の場所をそれぞれ北海道から南は沖縄まで検討し、この病院が私にとって日本で一番いいと判断してこちらに決めました。医師としても、また鹿児島人としても新米ですので皆様どうか御指導御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



研修医  
なかの かなな  
**中野 緩奈**

4月より鹿児島医療センターでお世話になっております、研修医1年目の中野緩奈と申します。医師として新社会人として、まだまだ未熟で至らないところばかりですが、1日でも早く仕事に慣れて患者様のお役に立てるよう頑張りたいと思います。ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



研修医  
さなだ けんや  
**眞田 賢哉**

4月よりお世話になっております、研修医の眞田賢哉と申します。まだ研修が始まって1カ月も経過しておらず、仕事を覚えることに精一杯ですが、充実した研修生活を送らせて頂いております。1日でも早く患者さんのお役に立てるよう精進していきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



研修医  
にしまた ゆみ  
**西俣 佑美**

はじめまして、研修医1年目の西俣佑美と申します。大学院の桜島コースから、最初の1年こちらに来させていただきました。血管系をはじめとする鹿児島最先端の医療にふれて、自分なりに少しでも成長できればと思っております。至らない点ばかりですが、ご指導よろしくお願いいたします。



研修医  
ひらみね あつこ  
**平峯 温子**

研修医1年目の平峯温子です。鹿児島大学卒業で、医療センターには12月までお世話になる予定です。短い期間ですが、できるだけたくさんのお話を吸収していこうと思っています。本当に右も左も分からない状態ですが自分なりに一生懸命頑張ります。どうぞよろしくお願い致します。



研修医  
わだ ますみ  
**和田 真澄**

はじめまして。和田と申します。4月の初めから大変充実した日々を送らせていただいております。感謝感謝の毎日です。社会人としての最初の目標は、「遅刻をしない」と「お酒に飲まれない」だったのですが…すでにもう駄目そうです…。すみません。皆さんの足を引っ張るようなことばかりしていて、本当に申し訳ないのですが、1日でも早く役に立てるよう頑張りますのでよろしくお願いいたします。



## 鹿児島医療センターでの勤務を終えて

この度3年間の勤務を終えて熊本に転勤することとなりました。この間震災のあった昨年3月を除いて毎月当広報誌を発行することができました。原稿へのご協力を頂きました地域の先生方並びに当院スタッフへ感謝申し上げます。

仕事では、市民公開講座や各研修など多くの方々に参加して頂きました。脳卒中や糖尿病など地域の医療機関と協同するパスも導入することが出来ました。また、県内・県外の地域連携のネットワークの場にも参加させて頂き、いろいろな話を伺えたことは自分の財産となっています。本来なら、在任中にお世話になりました先生方や連携室の方々にお伺いして御挨拶したいところですが、今回は紙面での挨拶とさせていただきます。

プライベートの面では以前より鹿児島に住んだったらいいと思っていたことが2つありまして、そのうちの1つを達成することができました。1つは最南端（実際には鹿児島中央駅からなので多少違いますが…）から最北端（稚内）まで電車で旅行することです。時間の関係上青森までは新幹線での移動で多少情緒には欠けましたが、今年の夏に2泊3日で達成することができました。もう一つは屋久島に行くことですが、これは達成できなかったので次回の赴任時には是非にと思っております。

私の在任した3年間で当院連携室は大きく体制が替わりました。また24年度も継続して変革の途中であり、また地域支援病院として至らないところが多々あります。これから新しい体制のもとに地域の医療機関により貢献できるよう頑張っまいりますので今後とも宜しくお願い致します。

（文責：地域医療連携係長 井上 弘毅）

## 循環器合同カンファレンスへのお誘い

当院では、毎週月曜日午後6時から手術適用症例などについて、循環器内科・心臓血管外科・麻酔科・リハ科など合同で症例検討会を開いています。オープンですので治療方針等について悩んでいらっしゃる症例がありましたら提示していただき、一緒に検討できればと思います。遠慮なくご参加お願い致します。

問い合わせ先 鹿児島医療センター 地域医療連携室

電話 099-223-1151 (内線 7344) FAX 0120-334-476

5

## 5月看護研修のご案内

主催 鹿児島医療センター看護部教育委員会

### 安全な抗がん剤投与管理

- 日 時：平成24年5月22日（火）18時30分～19時30分
- 場 所：教育研修棟3階
- 講 師：がん化学療法看護認定看護師 徳永 志保
- 対象者：医療関係者

※参加ご希望の方は準備の都合上、各コース3日前までに企画課（森永）までご連絡下さい。院外の方のご参加をお待ちしています。

電話 099-223-1151 (内線 7303) FAX 099-226-9246

## 新人看護職員研修案内 楽しく学ぶ基礎看護技術講座

当院では、平成24年度看護研修に新人看護師さん向けの研修を企画しています。院外からの受講される方も募集しています。一緒に楽しく看護の基礎を学びましょう。参加費用は1回受講500円です。

### ●「フィジカルアセスメント」

- ・日 時：平成24年5月26日（土）13時00分～17時00分
- ・講 師：集中ケア認定看護師 田代 祐子
- ・場 所：鹿児島医療センター附属看護学校
- ・対象者：新人看護職員（院内・院外）

※参加を希望する方は研修内容をご覧になり、当院教育担当看護師長に電話で申し込んでください。尚、連絡先につきましては個人の場合は自宅、団体の場合は病院の住所をお知らせ下さい。後日決定通知書を送付致します。

お問い合わせ 教育担当看護師長 電話 099-223-1151 (内線 7264)

■お問い合わせ先 独立行政法人 国立病院機構 **鹿児島医療センター**（循環器・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号 代TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246  
http://www.kagomc.jp 脳卒中ホットライン ▶ **090(3327)5765**

【地域医療連携室】 茵田・今泉・永重・神崎・森・中島・吉留・木ノ脇・水元・酒井  
直通電話▶099(223)4425 フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476  
※休日・時間外は当直者で対応します。

